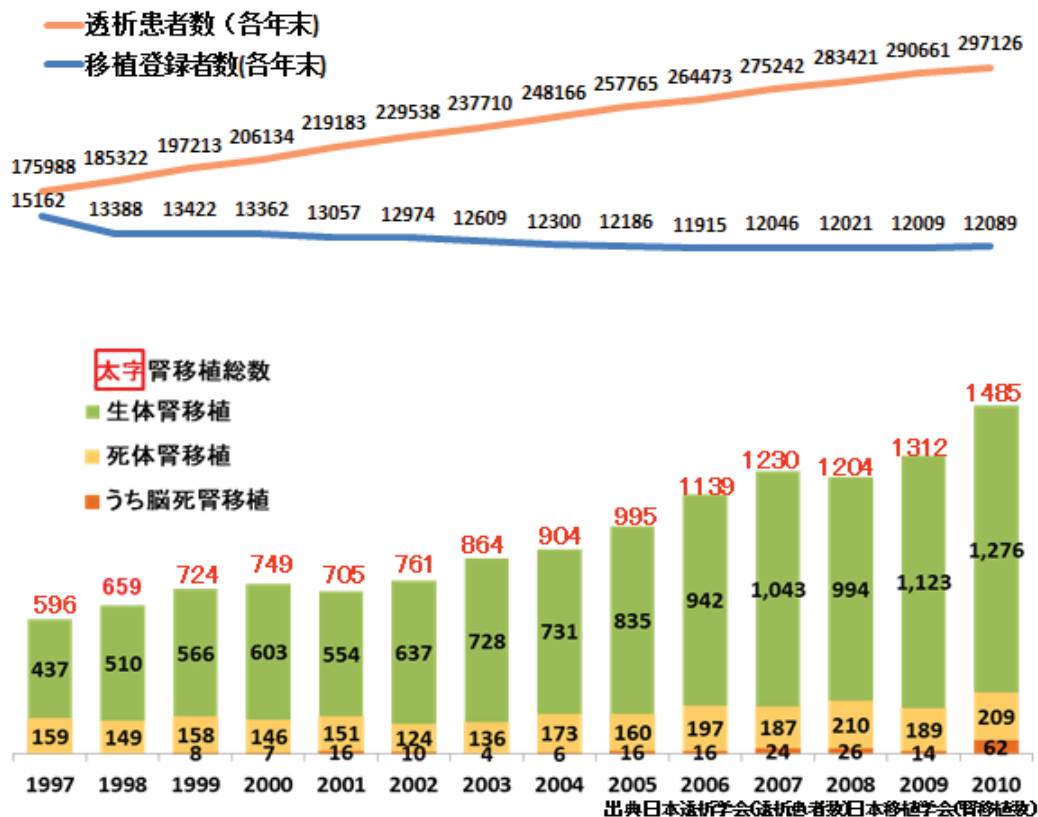


Q41. 腎移植の現状について教えてください。

A. 現在、末期腎不全で透析を受けている患者さんは297126人おられます。それに対し、腎移植を受けた人は2010年には1485人でした。その内、生体腎移植は1276人で残りの209人（献腎移植147人、脳死腎移植62人）が死体腎移植をうけています。献腎移植希望登録者は約12000人のため年間2%弱の人しか献腎移植を受けられていない状況が現状です。（参考までに、海外全体では年間65000件ほどの腎移植が行われており、例えば米国では15000件程度でその半数以上は献腎移植です。）（図40-1 参照）

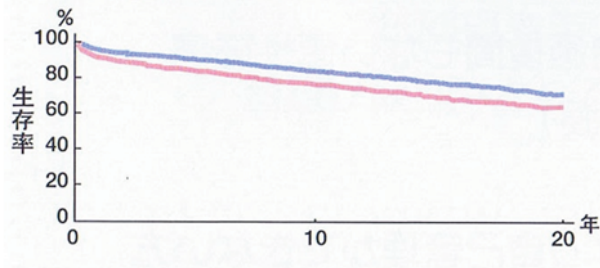
腎移植の成績は、生体腎移植で1年、5年、10年生着率が94%、82%、68%程度で、生存率は腎移植後10年で85%です。献腎移植は生体腎移植の約10%下回ると考えてもらうとよいと思います。また、腎移植は一度受ければ一生OK というものではありません。しかしながら、年代別生存率・生着率は年代とともに上昇しており、2000年以降腎移植成績は新しい免疫抑制剤の登場により透析への再導入率は5年で1割にまで減少してきています。腎移植全例（生体腎、献腎移植）の生存率を図40-2に年代別の生存率・生着率（生体腎（図40-3）、献腎（図40-4））をお示ししますので参考にしてください。

図40-1



生体腎移植および献腎移植全例の生存率

図40-2

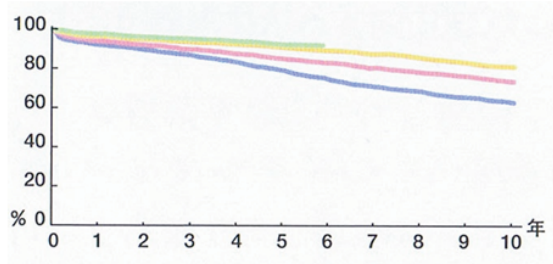


生存率	1年	5年	10年	15年
生体腎	95.3	90.7	84.8	79.4
献腎	90.4	83.4	76.5	69.5

生体腎(総例数10644)
献腎(総例数3521)

年代別の生着率(生体腎移植)

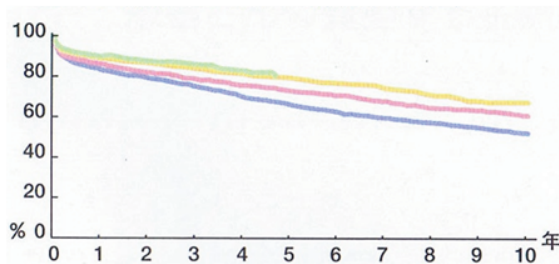
図40-3



生着率	1年	3年	5年	10年	
1990~1994年	92.9	87.1	79.9	64.3	1990~1994年(症例数1,931)
1995~1999年	94.1	90.2	85.7	74.6	1995~1999年(症例数2,037)
2000~2004年	96.8	94	91	-	2000~2004年(症例数2,815)
2005~2010年	97.3	95.2	-	-	2005~2010年(症例数4,126)

年代別の生着率(献腎移植)

図40-4



生着率	1年	3年	5年	10年	
1990~1994年	83.2	74.4	64.3	49.7	1990~1994年症例数1,931
1995~1999年	86.5	78.3	72.2	59.3	1995~1999年症例数2,037
2000~2004年	89.7	84.1	79.1	-	2000~2004年症例数2,815
2005~2010年	91.3	86.6	-	-	2005~2010年症例数4,126